

「重度脳障害児に出現する発作性交感神経過緊張に関する後方視的研究」

1. 研究の対象

2016年から2022年の間に定期的なフォローをされている患者様で、本症状ありと診断された方を対象とします。

2. 研究目的・方法

突発性交感神経過緊張は成人脳外傷などの8-33%において、急性期に認められる現象です。その症状としては、発熱、高血圧、脈拍、他呼吸、発汗、高CK血漿、全身筋緊張亢進、ジストニア（除脳肢位）などですが、明確な診断基準はないです。痛み刺激、体位交換、口腔ケア、気管内吸引などで容易に引き起こされます。

重症心身障害者（重度脳性麻痺児や中途障害児）では、「痛み」が日常生活を困難にしていることに注意を払うべきと言われており、「痛み」を適切に訴えられない児の代替表現として、泣く、唸る、顔をゆがめる、歯を食いしばる、睡眠障害、四肢を固くする、体動、反り返る、こぶしを握る、頻脈、発汗、顔面紅潮、息止めなどが単独または複合してみられます。この内の一つの症状として、突発性交感神経過緊張が出現することが日常診療ではよく観察されます。しかし、小児では、突発性交感神経過緊張はこれまでICUなどの救急の場面での報告のみであり、慢性期の重症心身障害児における報告は殆どないと言えます。今回、当院にてフォロー中の患者様で、突発性交感神経過緊張と判断された症例に関して、カルテをもとにその情報を集約して、その傾向や有効な治療法を整理することを目的として臨床研究を開始します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテをもとに、基礎疾患名、診断時年齢、現在の運動機能、脳画像、治療経過等をまとめていきます。

4. 研究期間

2022年5月20日～2025年5月19日まで

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先まで

お申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先

住所：〒989-3126 宮城県青葉区落合 4-3-17

電話：022-391-5111

宮城県立こども病院 副院長・神経科主任科長

研究責任者及：萩野谷 和裕